

ベトナム企業と業務提携

高品質な物流需要に対応



覚書を締結し、握手を交わす武藤社長（右）とインターログ社のミン社長

第一貨物

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)は8日、ベトナムの物流企業、インターログ(グエン・ドワイ・ミン社長、ホーチミン市)と資本参加を伴う業務提携契約に基本合意し、覚書を締結した。高水準の経済成長が続くベトナム国内の物流に加え、東南アジア諸国連合(ASEAN)域内の高品質な国際物流ニーズに対応していく。

ベトナムには約1500社の日系企業が進出し、日本や周辺諸国との活発な経

済活動が展開されており、高品質な物流サービスに対するニーズが年々高まっている。

第一貨物は2014年4月、ハノイ駐在員事務所を設立。日系企業などを対象に、特積みのノウハウを生かせる小口混載ニーズの調査を進めるとともに、現地での提携先企業を探してきた。

インターログ社は05年8月設立。従業員112人で、本社のほか、ハノイ市、ハイフォン市、ダナン市などの主要都市に拠点を構え、国際貨物輸送やコンテナヤード事業、通関業、倉庫業などを展開する。特にコンテナ1個に満たない小口混載貨物(LCL)の輸送が特色で、売上高は約7億円(16年度実績)。

同社は海上コンテナやトラックによる小口混載輸送など得意分野を生かした相乗効果を見込めると判断。正式契約は10月で、第一貨物の社員1人がインターログ社に出向し、ハノイ駐在事務所も応援する。主に日系企業が日本向けに生産する半製品などの輸出業務で連携を模索する。

資本については、第一貨物がインターログ社の株式の20%に当たる50万株を17年と20年に分けて取得。出資額は総額1億6500万円を見込む。将来的に役員も派遣する予定。

第一貨物本社で開いた記者説明会で、武藤社長は「当社のトラックによる小口混載輸送(LTL)とインターログ社のLCLを組み合わせたドア・ツー・ドアの一貫輸送を目指す。ベトナム国内でLTLの可能性も確かめたい」と提携の狙いを説明。また、海外展開については「基本的には現地企業と業務提携を進めたい」と語った。

ミン社長は「両者の強みを生かしてサービスを拡充し、日系企業などへの新規需要を開拓したい」と述べた。